



清 泉

令和 5 年 12 月 日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

寒い冬に、「あったかさ」を感じて

私が小学校の国語の授業で出会った大好きな詩です。
それは三好達治作「雪」です。

「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ」

たった二行の短い詩です。そして「太郎」と「次郎」の名前以外は同じ繰り返しです。私は今まで出会った詩でこれほど「そのとおり」と思ったことはありません。

みなさんは、どのような情景を思い浮かべますか？

一面銀世界。街灯も雪によりその明かりは穏やかなものとなり音という音は雪の中に消えゆく……。そして、布団や家の温かさが伝わってくる。私は大雪であっても、安心して眠ることができる、おおらかであたたかな「家（家族）」を思い描くのです。

このように短い詩であっても、私たちは、各々が、さまざまなイメージや思いを抱きます。

さて、私たちは、自分の発する『ことば』を意識することはどれくらいあるのでしょうか？私の昔話をさせてください。

大学時代のことです。2つの指摘を受けました。いまだにその時のことを覚えています。

- ① 「晴美ちゃんはいつも『ごめんね』、『すいません』ばかりだよ。謝るよりさ『ありがとう』って言えないの！」
- ② サークル仲間と食事に行ったとき、私が「●●でいいいや」と言った瞬間、メンバーの一人が「『●●が食べたい』の方がいいんじゃないかな……」

あの時の私は素直にこれらのアドバイス（ことば）を聞くことができなかったけれど、今の私は「そうだよね」とありがたく思っています。

小学校では、「あったかことば」や「チクチクことば」を各クラスで児童と先生と一緒に考え、掲示しています。中学校にもあるといいと思っていたところ、本校1階廊下にクリスマスツリーの絵が張られました。生徒会本部によって作成されたものです。そこには「幸せになる願いを書いてね」と生徒会からのメッセージとともに、カードが添えられていました。心が『あったかく』になりました。

現在の社会では、対面での会話以上に“インスタ”“LINE”などSNS上でのやり取りが多くなっているように感じます。相手の顔を見ながらの会話だと「あっ、今、相手を不愉快にする『ことば』を言っちゃったかな？」と気づくチャンスがありますが、SNS上だとその表情を垣間見ることができません。SNS上で一部の人の盛り上がったやり取りが、誰かを傷つけているということすら気づいていないのかもかもしれません。『ことば』というものをもう一度考えてみたいと思います。中学生も大人も『あったかことば』を意識して、この寒い冬を『あったかい世界』にしていきたいと思う今日この頃です。

クリスマスの日を前に
ご家族で読んでみてください

家族。
いっしょにごはんを食べる。
たくさんしゃべる日。
ほとんど話さなかった日。
意見がちがう。
けんかする。
大げんかできる。
思いはけっこうおなじで。
今日はいっしょに笑っている。
いつもの朝ごはん。
本気で叱ったこと。
いっしょに泣いたこと。
時にじっと黙っていた。
いつも心配している。
必死で守っている。
いっしょに暮している。
だけど。
寂しいもんだ。
ずっとずっと抱きしめてはいられない。
親子はいつか離れていく。
そしてやがて
またあたらしい家族ができる。
ずっとつながっていくんだ。
そっと離れて見ている。
家族でよかった。
生まれて、よかった。

【福井新聞社】新聞 2010 年 12 月 25 日
コピーライター 古川雅之（電通関西支社）